



「夜行列車」

DVD 発売中
KKDS - 576・モノクロ・98分
価格：¥5,040(税込)
発売元：紀伊國屋書店



今回取り上げるのは、列車を舞台にした傑作、ポーランドで一九五九年に製作された「夜行列車」である。監督は、「影」や「尼僧ヨアンナ」等を撮ったイエジー・カヴァレロウィッチ。カヴァレロウィッチ監督は、ポーランド映画界の重鎮であり、二〇〇七年に亡くなる直前まで映画を撮っていたようであるが、多くの日本人が注目したのは「夜行列車」をはじめとしたこれらの三作が公開された五〇年代末から六〇年代初めにかけてであった。当時、いわゆる「雪解け」がソ連、東欧に広がり、スターリン主義に対する批判を正面というより、側面から取り上げた映画がかなり製作された。それらの中でも、特にポーランドにおいて傑作が生まれ、代表的な例が、アンジェイ・ワイダの「地下水道」と「灰とダイヤモンド」であると思う。カヴァレロウィッチの日本公開第一作の「影」もポーランド映画のこの動向を反映しており、共産党の秘密主義への疑問が鋭く投げ掛けられていたように思えたが、その後はワイダ等とは異なり、映画作家としての興味は、ストーリーニズム批判とは異なった方向に向かった。同時期ポーランドに現れたロマン・ポランスキーと同様に、才能豊かなカヴァレ

鉄道と映画 — 33

「誰もが愛されたがっている、でも愛さない」
夜行列車の中、乗客たちの人生が交錯する。

POCIAG

「夜行列車」



文・羽生次郎

text by Jiro HANYU

1946年東京生まれ、69年東大経済卒、同年運輸省入省、人事課長、運輸審判官等を経て、2002年8月国土交通審判官を退官。現在は笹川平和財団会長を務める。フィルム・コミッション(FC)への取り組みなど、映画へ深い情熱を注ぐ。

ロヴィッチは、自国の直面する政治的テーマからは距離を置き、この映画や「尼僧ヨアンナ」で見応えのある映画を撮り、映画ファンの期待に応えた。

もう一つ注目すべきは、「夜行列車」の俳優たちの演技の質の高さである。マルタを演じる主演女優のルチーナ・ヴィンニツカ(実生活ではカヴァレロウィッチ夫人)は、この映画と「尼僧ヨアンナ」の演技で世界的な名声を得たし、医者イエジー役の男優のレオン・ニエムチックはポランスキーの名作「水の中のナイフ」に主演、マルタにつきまとう若者を演じるズビグニエフ・ツィブルスキは「灰とダイヤモンド」に主演、存在感のある若い反逆者を演じた。五〇年代から六〇年代のポーランドを代表する俳優が数多く出演し、見事な演技を見せている。

物語は、夏の休暇期、海岸に向かう列車の中に紛れ込んだ殺人犯の行動を背景に、逃走劇に巻き込まれた乗客たちの人間模様を描いている。ヒッチコックの「バルカン超特急」との類似を示唆する向きもあるようだが、あらゆる点から見て、ハラハラドキドキのスリラー映画ではなく、一等車に乗り合わせた不幸な男性経験を持つマルタと、ごく最近トラウマとなる経験をした医師イエジーとのやり取りを中心に、他の乗客たちの言動を絡めて描く群像劇である。また、東欧の映画にありがちな暗さはなく、むしろ西欧的な一種の小市民的な倦怠感が漂う雰囲気のある映画に仕上がっている。

この映画は、上手なカメラワークと効果音により、夏の午後から夜にかけて、込み合った夜行列車に乗っているような感覚を観客に与えている。また、筆者にとって印象に残ったシーンは、夜が明け、終点の最寄り駅でマルタにつきまとった青年がよりを戻せない知り、茫然と列車を見送るところである。朝の明るい光の中で失恋を悟った若者の心情を良く表現している。最近DVDが発売され、茶の間で鑑賞することが可能なので、ご覧になることをお勧めする。しかし、欲を言えば、「夜行列車」のように手の込んだ黒白スタンダードの映画は、小さな映画館で見ることが出来ればと思う。